

立命館慶祥高3年・和田さん

論文テーマは「広尾」

【広尾】立命館慶祥高3年の和田健輔さん(18)は札幌市が、母厚子さん(56)の故郷広尾町の活性化をテーマに論文を書き上げた。4月に立命館大法学部に進学する和田さんは「将来の夢は政治家。地方が元気になるお手伝いをしたい」と、27日までの16日間は町役場で長期インターンシップに励んでいる。

祖父は誠一さん
祖母は信子さん

和田さんは帯広市生まれ。5〜8歳を東京で過

母の故郷 活性化を探る

ごし、その後は札幌市に住んでいる。

同校3年生が立命館大へ進学する場合、1年間



インターンシップで役場職員の説明を聞く和田さん(左)

の課題研究と論文発表が必要。和田さんは、祖父に長期休暇のたびに訪れていただくため、「微力でも広尾の活性化について考えてみたかった」。昨年

誠一さん(85)、祖母信子さん(83)が住む広尾

役場で職場体験も 「地方の元気、お手伝いを」

夏に役場などを取材し、論文を執筆した。

完成した論文は「北海道広尾町が日本の未来を救う―地方が活性化させる処方箋」。▽外国人労働者の住みやすさ▽海外との貿易交渉▽漁業発展▽観光発展―の4分野について学ぶ人材を募集し、海外派遣するという独自の人材育成策を提案した。

公益財団法人青雲塾(本郡群馬県高崎市)が今年度募集した論文に応募すると、高校生の部で佳作を受賞。高い評価を得て、9日には校内で発表した。

今回のインターンシップは、昨年夏に取材した役場職員から誘われて快諾。12日から町役場企画課でパソコンでの打ち込み作業などに取り組んでいる。「役場の皆さんはとても親切で仕事をするのも新鮮」と話し、「町の政策なども知ることができ、地方行政を学ぶいい機会」と自らの糧としている。(松村智裕)